

# 事業概要説明シート

事務事業番号 30976

事務事業名	枚方版ブックスタート事業		
事業開始年度	平成21年5月～	担当部署	子ども青少年部 子育て支援室 入所・地域支援担当

根拠法令	枚方市安心子育て応援事業補助金交付要綱
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託又は指定管理(委託先又は指定管理者: ) <input type="checkbox"/> その他( )
目的 (何のために)	<p>少子化や核家族化の進行などにより、子育てに伴う負担感・不安感が増大しているため、地域における相談、支援体制の充実が求められている。</p> <p>絵本を介して子どもと保護者との心のふれあいを一層深めてもらうとともに、親子に保育所を気軽に訪れたり相談できる場所と感じてもらふことにより、子どもの健やかな成長を促すとともに、保護者の育児に対する負担感を和らげることを目的とする。</p>

対象 (誰・何を対象に)	市内在住の1歳の誕生日を迎えた乳児
-----------------	-------------------

事業内容	<p>子どもの言葉を育てるだけでなく、豊かな感情や思考を育てていく上で重要な教材である絵本との出会いの大切さや、絵本の楽しさを知ってもらうとともに、絵本を通して子どもと保護者の心のふれあいを一層深めてもらうことを目的に絵本をプレゼントする。また子どもにとって印象的で効果的な「ブックスタート」とするため、本市ならではの取り組みとして、保育所(園)ふれあい体験において、1歳の誕生月に合わせて実施する。</p>
------	--

類似事業	ブックスタート事業は多くの自治体で実施されているが、実施手法については、自治体により異なっている。
------	---

事業の必要性	保育所(園)で実施することにより、保育士がその専門性を生かした絵本の紹介や読み聞かせを丁寧に行うことができるため、より効果的なブックスタートとなるとともに、月齢を同じくする子どもやその保護者との交流の機会となることから必要な事業である。
--------	--

コスト		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
		従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費	従事職員数	概算人件費
正職員		0.1人	811千円	0.1人	809千円	0.1人	800千円
再任用職員		人	0千円	人	0千円	人	0千円
非常勤職員等		人	千円	人	千円	人	千円
人件費計(A)			811千円		809千円		800千円
直接経費(B)			2,058千円		1,952千円		2,494千円
総事業費(A+B)			2,869千円		2,761千円		3,294千円

財源内訳		H22年度決算		H23年度決算		H24年度当初予算	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円
国庫支出金							
府支出金		1,827	千円	1,134	千円	2,267	千円
受益者負担(使用料等)			千円		千円		千円
その他			千円		千円		千円
一般財源		1,042	千円	1,627	千円	1,027	千円

	内 容	金 額
平成23年度 事業費の主な内訳 (人件費除く)	枚方版ブックスタート事業経費(消耗品費2,450、印刷費44)	2,494千円
		千円
		千円

事務事業名	枚方版ブックスタート事業				
事業開始年度	平成21年5月～	担当部署	子ども青少年部 子育て支援室 入所・地域支援担当		
活動実績	活動指標もしくは成果指標	単位	H22年度	H23年度	H24年度(見込み)
	① 枚方版ブックスタート参加の割合	%	64.49	61.61	65.00
	②				
	③				
単位当たりコスト (総事業費/活動指標)	①				
	②				
	③				
成果目標 (目標とする成果)	<p>生後4か月までの乳児のいる全家庭を訪問する乳児家庭全戸訪問事業(「こんにちは赤ちゃん事業」)、4か月健診、5～8か月児と1歳児を対象とする保育所(園)ふれあい体験事業、1歳6か月健診等と合わせて、子どもが著しく発達する1歳6か月までの時期に、子どもの成長段階に応じた子育て支援に係る事業を連続的に実施し、育児相談や子育て支援に係る情報提供を行う機会を設定することで、親の育児不安の軽減を図り、子どもの健やかな成長を促す。</p>				
比較参考値 (他自治体での事業の例など)	<p>ブックスタート事業は、全国で820市区町村、大阪府内では15市町で実施されている(平成24年7月31日現在:NPOブックスタート調べ)。他自治体では、4か月健診や1歳6か月健診などの機会に、図書館職員やボランティアが絵本の読み聞かせを行い、絵本を手渡すケースが多い。 本市では、全保育所(園)で実施しており、その意義として以下のことがあげられる。 ①保育所(園)は、公私立合わせて55か所もあるため身近な場であり、乳幼児を安心して連れて行ける環境であること。 ②保育士がその専門性を生かして読み聞かせを行うことにより、子どもは絵本が好きになり、保護者も絵本の良さを認識したり、読み聞かせのスキルを学ぶ機会となること。 ③保育士にとって、絵本の大切さを再認識・再学習する場となり、保育資質の向上につながる効果が期待できること。 ④ブックスタートを、保育所(園)における地域での子育てを支援する一連の取り組みの一つとして実施することで、そのフォローアップも可能であること。</p>				
特記事項	<p>事業実施1年目の平成22年度に2か月にわたって、本事業と合わせて実施している「保育所(園)ふれあい体験」において参加者対象のアンケートを行った結果、参加の動機は1歳児については「絵本がもらえるから」が8割を占め、次いで「同年齢の子と遊べるから」「楽しそうだから」「親同士のつながりができれば」という回答が多かったことから、身近な子育て支援の場である保育園に出かける誘因となっている。</p>				
一次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	現状のまま継続	効率的なPRに努め、対象者に対する参加者の割合を高めていく。			
一次評価結果	・事業自体の有効性の検証が必要では				
二次点検における事業の今後の方向性及び具体的な今後の取り組み方策	現状のまま継続	対象者に対する参加者の割合を高めていくとともに、単体の事業としてではなく、子育てに不安を感じている親の育児支援に係る各種の地域子育て支援事業につなげ、継続的な子育て支援に結び付けるための効果的なPRや事業運営を行う。			